J-CIP シンポジウム

がん登録の未来　医療・研究ができること

伊藤 秀美
愛知県がんセンター研究所　がん予防医療研究領域　がん情報・対策研究分野　分野長

2016 年 1 月より、全国がん登録の推進に関する法律に基づくがん登録が開始されました。全国がん登録の基本理念として、法第 3 条に「全国がん登録及びがん診療情報の収集により得られた情報については、これらをがん患者の診療を通じて得られる貴重な情報であることを鑑み、民間によるものを含めがんに係る調査研究のために十分に活用されるとともに、その成果ががん患者及びその家族をはじめとする国民に還元されなければならない」とあるように、全国ならびに院内がん登録情報の活用と、その成果の国民への還元が期待されています。

愛知県がんセンター研究所では、1988 年より 2013 年まで 25 年にわたり、併設されている愛知県がんセンター中央病院の初診患者を対象とした大規模病院疫学研究（通称 HERPACC; Hospital-based Epidemiological Program at Aichi Cancer Center）を実施していました。この枠組で蓄積された疫学情報や遺伝情報を曝露要因とし、院内がん登録や全国がん登録情報を利用して得られたがん罹患情報をアウトカムとして、リスク要因や予防要因を探索する症例対照研究から数多くの成果が得られています。また、院内がん登録や診療科から得られた詳細な診療情報を活用し、患者コホート研究を実施し、予後に影響を与えるような生活習慣を探索しています。

2017 年 10 月からは、HERPACC 研究での経験を活かし、未来のがん予防・医療の発展ため、キャンサーバイオバンク愛知（通称 CBBA）が設立されました。愛知県がんセンター中央病院を受診する患者さんにご協力をお願いし、疫学情報、遺伝情報、診療時に発生する生体資料や関連する診療情報などを、がん研究に利用できるようバンキングを進めています。今後、CBBA においても、HERPACC 同様、院内がん登録や全国がん登録を利用してがん罹患を把握する予定です。

我が国にはバイオバンクを保有する施設が複数あります。院内がん登録が整備されている施設では、院内がん登録情報とのリンケージにより、質の高い臨床病理情報を効率良く完備することができますが、リンケージを行っているバンクはほとんどないのが現状です。医療と予防のトランスレーショナルリサーチの貴重な基盤構築のため、ひとつでも多くのバイオバンクが院内がん登録情報とのリンケージを行うことが期待されます。また、現在我が国で進められている日本バイオバンクネットワークの構築に加え、定期的な全国がん登録情報とのリンケージや、保健医療サーボスのデータベースとのリンケージにより、バイオバンクを中心としたがん医療・予防、疫学、公衆衛生のための研究基盤の構築を目指すべきだと考えます。現在の医学は、過去の患者、医師、研究者が共に作ってきたものです。これを新しいものにして、次世代に渡すことが、がんの医療、医学に関わっている者の役目と考えます。このバイオバンクを中心とした研究基盤の構築と活用が、医療や研究に携わる者ができるがん登録の未来のひとつと考えます。